

太平洋の島国を水没の危機から救うには「もはや手遅れ」

"Too late" to save Pacific island nation from submersion

9万7000人のキリバス国民は今世紀中にも故郷を失おうとしている、と同国大統領が国際社会に訴えた。

doi:10.1038/news.2008.880/6 June 2008
Katharine Sanderson

太平洋のサンゴ礁島の大統領は、気候変動に起因する海面上昇のために、自分たちは今世紀末までに故郷を捨てざるをえなくなるだろうという懸念を表明した。

水没の危機に瀕しているキリバス共和国の Aote Tong 大統領は、国際社会は気候変動の責任をとって、同国の国民に新たな居住地を提供してほしいと訴えた。

32の環礁と1つのサンゴ礁島からなるキリバス共和国は、日付変更線のすぐ西に位置し、赤道にまたがっている。これらの島々の海拔は、最も高い土地でも2メートルに満たない。ほとんどの土地はこれよりもはるかに低く、平坦である。Tong 大統領によると、海面上昇のために、キリバスに住む9万7000人の国民は、2100年までに移住先を見つけなければならなくなるという。

Tong 大統領は、国連世界環境デーのホスト国であるニュージーランドで開かれた記者会見で、「もう後戻りのできないところまで来てしまったのかもしれない」と語った。

「さよならのキス」

環境問題の専門家たちは皆、この島々の運命はほぼ定まったと考えている。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第2作業部会の共同議長

である Martin Parry は、「報告書に書かれているとおりです」という。「このままでいけば、キリバスはほぼ確実に、我々に『さよならのキス』をして海の中に沈んでいくでしょう」。

たとえ世界の温室効果ガスの排出量が減少に転じたとしても、気候が海面上昇に及ぼす影響はゆっくりとしか現れてこないため、キリバスの島々を救うのは不可能である、と Parry はいう。「おそらく、海面は100年近く上昇し続けるでしょう」と彼はいう。「我々は、問題を先送りにし過ぎたのかもかもしれません」。

IPCCの2007年の報告書では、全世界の海面は今世紀中に30～50センチメートル上昇すると予想されている。実は、この数字は控えめに見積もられている。報告書が作成された当時は、南極大陸西部とグリーンランドの氷の融解に関して研究者たちの意見が一致していなかったため、海面上昇に大きな影響を及ぼす可能性があったにもかかわらず、この部分からの寄与は考慮に入れられなかったのである。

2007年の報告書の執筆協力者であり、英国エディンバラ大学地球観測研究グループのリーダーである Andy Shepherd は、「その後、いくつかの研究により、これらの領域で氷の融解が加速しつつあることが明らかになりました」という。

Parryの現在の計算によると、海面上昇を50センチメートルに抑えるためには、世界の温室効果ガスの排出量を直ちに半減させ、2050年までに全体の80パーセントを削減する必要があるという。それでもキリバスを救うことはできない。「こうした島々は、50センチメートルの海面上昇にも耐えられないのです」と Parry はいう。浸水が起こるだけでなく、高潮が増加して、さらなる損害をもたらすのだ。

国際社会の役割

Tong 大統領がニュージーランドを訪れたのは、キリバス国民の移住先を提供するための援助を首相に訴えるためだった。Parryもまた、気候変動によって住みかを追われる人々に対しては、国際社会が責任を負うべきであると考えている。「キリバスの例は、こうした大きな影響の中には回避できないものがあることを示しています。我々はもう当事者なのです。国際社会は当事者として、何らかの方針を打ち出していかなければならない、と彼はいう。しかし、そのような方針はまだ決まっていない。Parryは、米国中西部の干ばつなど、大きな先進国で気候変動に関連した災害が起こらないかぎり、国際社会は動こうとしない可能性がある」と示唆する。

Tong 大統領は、目に見えて浸水してきた故郷の運命をあきらめている。村々は浸食されており、移転を迫られていると彼はいう。

「我々にできることは何もありません」と Parry はいう。「キリバスの人々は、気候変動の影響をまともに受けているのです」。また、Shepherd は、「現時点で海拔100センチメートル未満の場所に住んでいる人々は、来世紀には移住を考えるのが賢明だと思います」といっている。 ■



キリバスの美しい海岸線は海の中に沈んでいく運命にある、と専門家も認めている。